

入会のご案内

本会には、個人会員と団体会員があります。*

個人会員

会員種別	入会金	年額	配布会報
個人正会員	1,000 円	9,600 円	化学と工業
シニア会員	1,000 円	6,000 円	化学と工業
学生会員		6,000 円	化学と工業
教育会員		7,200 円	化学と教育
教育学生会員		4,800 円	化学と教育
ジュニア会員		3,000 円	会報の選択

特典

- ・会員種別での会報配布
- ・論文誌の講読(含む電子版)
- ・年会やフェスタへの参加
- ・当会が主催・共催する行事への割引参加
- ・部会・ディビジョンへの参加
- ・電子メールによる最新情報配布
- ・提携ホテル、レンタカー、書籍等の割引

入会申し込み方法

個人会員の入会申込

- ・化学会ホームページからお願い致します。
- ・WEB 入会: <https://mypage.csj.jp/application.php>

団体会員の入会申込

- ・会員担当(会員 G)へお問い合わせください。

法人正会員

- ・年間会費は、1 口:25,000 円で 4 口以上
- 法人正会員には、口数に応じて、会報、論文誌の送付・アクセス権付与、年会への参加、化学会館の利用などの特典がありますが、基本的に法人会費は、当会の活動への支援であり、我が国の化学の活性化と進歩に資するためのものであることをご理解ください。

公共会員

- ・公共会員(学校、公共図書館、公共研究機関)の年間会費は、配布を受ける会誌により異なります。
- ・詳細は下記会員 G へお問い合わせください。

2015 年 会費一覧

- ・http://www.chemistry.or.jp/application/doc/membership_dues_2015.pdf

問い合わせ先

- ・会員担当(会員 G)
- E-mail: member@chemistry.or.jp
- TEL: 03-3292-6169

*本会の会員は、本会の目的に賛同する個人または団体です。(定款より)

電話でのお問い合わせ

総務部総務(代表)	TEL 03-3292-6161 FAX 03-3292-6318 以下、局番共通
入会のご案内	TEL 6169 FAX 6317
年会のご案内	TEL 6163 FAX 6318
会議室利用の申込み	TEL 6162 FAX 6318
論文誌購読	TEL 6169 FAX 6317
広告掲載のご案内	TEL 6165 FAX 6319
支部	
北海道支部	TEL 080-2862-6084
東北支部	TEL 022-224-3883
関東支部	TEL 03-3292-6163
東海支部	TEL 052-231-3070
近畿支部	TEL 06-6441-5531
中・四国支部	TEL 082-420-0037
九州支部	TEL 092-642-3574

各種申し込みはホームページ上でできます。
<http://www.chemistry.or.jp/>

化学会館へのアクセス





公益社団法人 日本化学会

目 的

本会は、化学に関する、学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及、並びにそれらを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することを目的とする。(定款第3条)

沿 革

1878年(明治11年)	化学会創立、翌年、東京化学会と改称
1898年(明治31年)	工業化学会創立
1921年(大正10年)	東京化学会が日本化学会と改称
1948年(昭和23年)	日本化学会と工業化学会が合併
1991年(平成3年)	化学会館竣工
2003年(平成15年)	創立125周年記念
2011年(平成23年)	公益社団法人に移行

役 員

代表理事	会 長	榊原定征(東レ株)
代表理事	筆頭副会長	黒田一幸(早稲田大学)
代表理事	常務理事	川島信之(日本化学会)
業務執行理事	副会長	浅見正弘(富士フイルム株)
	同	小坂田耕太郎(東京工業大学)
	同	佐藤穂積(JSR株)
	同	茶谷直人(大阪大学)
	同	辻康之(京都大学)

理 事 19名

監 事 4名

所在地 東京都千代田区神田駿河台1-5、全国に7支部

会員数 29,124名(平成27年4月末現在)

常勤職員 29名(平成27年4月末現在)

予算規模 年間約8億円

主な事業

学術集会の開催(年会、シンポジウム、講演会他)、表彰、出版(機関誌、論文誌、ニュースレター、書籍)、教育・普及事業、産学・産産連携(CSJ化学フェスタ)、国際交流、環境安全推進、男女共同参画推進、政策提言、調査・研究、受託事業

春季年会

化学に関係するあらゆる学問領域・分野の研究者が一堂に会する
講演件数約 6,000 件、参加者数約 8,500 名の規模を誇る
国内最大級の学術集会

研究成果を発表し、情報交換を行う『アカデミック・プログラム(AP)』および
産学・産産交流を目的とした『アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)』
を中心に、『アジア国際シンポジウム』、『市民公開講座』など、毎年多彩な
シンポジウムが企画され、会長講演、日本化学会各賞授賞式も行われます。
また、分析機器や化学図書などの展示会も併設されます。



ノーベル化学賞受賞者

出版

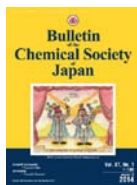
化学と工業

本会と会員、会員同士を結ぶ機関誌。
化学・工業分野の動きを他分野の方
にわかるようにやさしく解説。



化学と教育

化学教育の専門誌。化学の基礎を平易に
解説するとともに、化学教育に関する論文、
教育現場の実験報告などを掲載。



Bulletin of the Chemical Society of Japan
1926 年創刊。基礎化学から応用化学まで
化学分野全般を対象とする国際論文誌。



Chemistry Letters
1972 年創刊。総合化学一般誌として、
最新の研究成果を掲載する国際論文
速報誌。

書籍

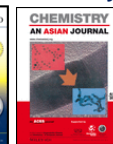
化学便覧 基礎編、応用化学編(丸善出版)
CSJ カレントレビュー(化学同人)
感動する化学—未来を開く化学の世界(東京書籍)
化学の要点シリーズ(共立出版)、他多数



The Chemical Record



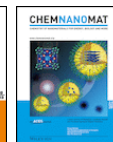
Chemistry - An Asian Journal



Asian Journal of Organic Chemistry



ChemNanoMat



出版社やアジアの学会と連携した論文誌

支部・部会・ディビジョン

支部(7)

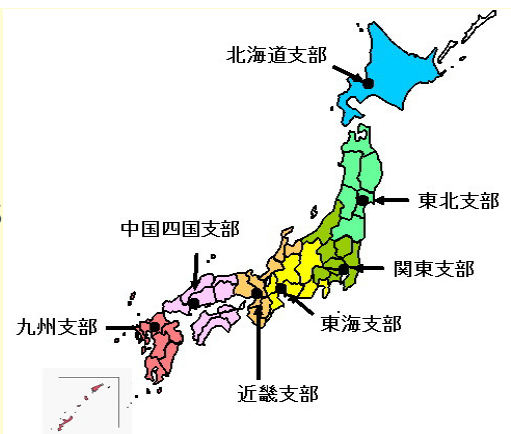
北海道支部・東北支部・関東支部・東海支部・近畿支部・中国四国支部
九州支部

部会(5)

コロイドおよび界面化学部会・情報化学部会・生体機能関連化学部会・
バイオテクノロジー部会・有機結晶部会

ディビジョン(21)

物理化学/光化学/理論化学・情報化学・計算化学/無機化学/錯体化学・有機金属化学/有機化学/
天然物化学・生命科学/生体機能関連化学・バイオテクノロジー/医農薬化学/分析化学/電気化学/触媒化学/
高分子/ナノテク・材料化学/コロイド・界面化学/有機結晶/資源・エネルギー・地球化学・核化学・放射化学/
環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステナブルテクノロジー/化学教育/化学経済・経営・研究管理・MOT/
生産技術・製品開発



教育・普及

2015年第47回国際化学オリンピックアゼルバイジャン大会

化学教育の充実と化学の普及・啓発活動

化学グランプリ

国際化学オリンピックへ代表派遣

普及活動

夢・化学-21

(実験教室、化学クイズショー、出前授業など)

化学普及書の発行

教育政策提言

化学だいすきクラブ

(小・中・高生対象のニュースレター発行)

各支部実験教室・講演会

化学の日(10月23日)・化学週間



産学連携

CSJ 化学フェスタ (日本化学会秋季事業)

産学官の交流深耕による化学、化学技術の発展、イノベーションの推進・強化、化学の社会への発信が目的。テーマシンポジウム、産学官 R&D 紹介、学生ポスター、公開企画、産学官コラボレーション特別企画などを実施。

産学交流委員会

春季年会における ATP 企画、技術者教育、人材交流などを推進。
化学技術基礎講座(化学技術者の基礎化学力向上を目的とした集中講義)
R&D 懇話会(企業所属会員の少人数による研究会・勉強会)
技術開発フォーラム(最先端技術に特化した講演会)
博士セミナー、化学分野 JABEE 委員会への委員派遣

就職支援

大学・企業人事担当者による就職交流会、
化学系学生のための企業合同説明会



国際交流

環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM)

1984年より5年に一度ホノルルで開催
日・米・加・韓国・中国・豪州・ニュージーランドの化学会が共催
第6回(2010年12月開催)では世界約60ヶ国12,700人が参加
第7回は2015年12月15日~20日開催予定

国際純正・応用化学連合(IUPAC)

世界約61ヶ国が参加する化学の国連。化合物の命名、原子量の決定他
日本化学会は賛助・個人会員の事務局
2012より2年間 巽和行 名大教授が会長を務めた。

アジア化学会連合(FACS)

アジアの化学会の連合(加盟30ヶ国) 16ACCは2015年11月バングラデシュ
で開催予定。17ACCは札幌で開催予定。

CS3

独・英・中・米・日の参加5ヶ国化学会が、助成団体とパートナーを組み、
世界が直面する喫緊のテーマについて討議。白書にまとめ政府や会員に提言
第6回CS3は2015年9月ドイツで開催予定

2国間協定(日中若手化学者フォーラム、日英シンポジウム)

その他、米国、英国、ドイツ、中国、韓国、カナダなどの主要化学会と交流

日欧科学技術イノベーションシンポジウム

大使館、JSPS、スウェーデン王立工学アカデミーなどの協力を得て、日本発の
イノベーションを伝えるシンポジウムを開催



INTERNATIONAL UNION OF
PURE AND APPLIED CHEMISTRY

